

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。
記

令和5年度病害虫発生予報第7号(10月)
令和5年度病害虫発生予察注意報第13号
令和5年度病害虫発生予察注意報第14号

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085
内線 471
ファックス 0561-63-7820

令和5年度病害虫発生予報第7号(10月)

令和5年10月2日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイズ	吸実性カメムシ類	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 9月下旬の水田におけるミナミアオカメムシの発生量は平年並 10月の気温は高い	± ± +

・防除対策

[ダイズ・吸実性カメムシ類]

ダイズの吸実性カメムシ類の9月下旬調査における発生量は平年並ですが、一部地域で発生が多いほ場が確認されています。また、水稲収穫後の水田からダイズほ場へ移動し、加害する可能性があります。ほ場におけるカメムシ類の発生状況をよく確認し、適宜防除を行いましょう。詳細は、9月1日発表の「吸実性カメムシ類情報第1号(ダイズ)」を参照してください。

・留意事項

ハスモンヨトウの発生がダイズにおいて多い状況です。詳細は、9月28日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第12号」を参照してください。

イネ白葉枯病の病原菌は、被害わらやもみで越冬し、次作の発生源となります。また、ニカメイガや、イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカは、水田畦畔の雑草やひこばえで越冬します。越冬量を減らすため、収穫後の耕うんを始めとする秋期管理を実施しましょう。詳細は、本日発表の「水稲の秋期管理情報第1号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナシ	黒星病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の降水量はほぼ平年並	± ±
カキ	炭疽病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の降水量はほぼ平年並	± ±
カキ ウンシュウミカン	カメムシ類	やや多い	県全域	予察灯における誘殺数は やや多い フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 9月下旬のカキにおける被害果 率はやや少ない 10月の気温は高い	＋ ± － ＋

・防除対策

〔果樹共通・カメムシ類〕

9月15日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第11号」を参照してください。

・留意事項

ブドウべと病について9月下旬の発病葉率は、過去10年間で最も高い状況でした。次作への伝染源を減らすため、落葉をほ場外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

ナシ黒星病が発生しているほ場では、次作への伝染源を減らすため、落葉をほ場外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

モモせん孔細菌病の発病葉が目立つほ場があります。次作への伝染源を減らすため、秋期防除を実施しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ	べと病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の降水量はほぼ平年並	± ±
	コナガ	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	± ±
	ハイマダラノ メイガ	多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の気温は高い	＋ ＋
	アブラムシ類	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
キャベツ	黒腐病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の降水量はほぼ平年並	＋ ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	オオタバコガ	多い	県全域	9月下旬の発生量が多い フェロモントラップにおける誘 殺数が多い 10月の気温は高い	＋ ＋ ＋
	コナガ	平年並	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 10月の気温は高い	－ ± ＋
	シロイチモジ ヨトウ	多い	県全域	9月下旬の発生量が多い フェロモントラップにおける誘 殺数が多い 10月の気温は高い	＋ ＋ ＋
	ハイマダラノ メイガ	多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の気温は高い	＋ ＋
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	黄化葉巻病	平年並	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない 10月の気温は高い	－ ＋
	コナジラミ類	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の気温は高い	± ＋
イチゴ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	炭疽病	多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 7月下旬の育苗ほでの発生量は 多かった 10月の気温は高い	＋ ＋ ＋
	ハダニ類	多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の気温は高い	＋ ＋
野菜共通	ハスモンヨト ウ	多い	県全域	9月下旬のキャベツにおける発 生量が多い フェロモントラップにおける誘 殺数が多い 10月の気温は高い	＋ ＋ ＋

・防除対策

[ハクサイ、キャベツ・ハイマダラノメイガ]

本日発表の「ハイマダラノメイガ情報第1号（キャベツ、ハクサイ）」を参照してください。

[キャベツ・黒腐病]

降雨が予想される場合は、降雨前後に予防のために銅剤等を散布しましょう。

[キャベツ・オオタバコガ]

本日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第13号」を参照してください。

[キャベツ・シロイチモジヨトウ]

9月13日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第10号」を参考に、ほ場での発生が見られたら速やかに防除しましょう。

[トマト・コナジラミ類]

8月18日発表の「コナジラミ類情報第1号（トマト）」を参考に、ほ場での発生が見られたら速やかに防除しましょう。

〔イチゴ・炭疽病〕

7月下旬の巡回調査（育苗ほ）では発生量が多い状況でした。発病株や隣接する株は速やかに抜き取って、ほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。また、8月1日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第7号」を参考にしてください。

〔イチゴ・ハダニ類〕

本日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第14号」を参照してください。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

9月28日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第12号」を参照してください。

・留意事項

サツマイモ基腐病が全国で多発しています。サツマイモの葉が変色し、いもが茎につながる方から腐敗している場合などはサツマイモ基腐病が疑われます。防除対策については4月21日発表の「サツマイモ基腐病情報第1号」を参考にしてください。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	ハスモンヨトウ	多い	県全域	野菜類のフェロモントラップにおける誘殺数は多い 10月の気温は高い	+
	オオタバコガ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は多い 10月の気温は高い	+

・防除対策

〔キク（露地）・ハスモンヨトウ〕

9月28日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第12号」を参照してください。

〔キク（露地）・オオタバコガ〕

本日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第13号」を参照してください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台9月28日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わります。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量及び日照時間は、ほぼ平年並です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、平年並の確率50%です。

3～4週目は、平年並または高い確率40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 10% 平年並 : 30% 高い : 60%

〔降水量〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%

〔日照時間〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%